

# 平成29年度 学校自己評価システムシート ( 県立草加高等学校 全日制課程 )

目指す学校像	校訓「まこと」に基づき、知・徳・体の調和のとれた人間の育成を図る進学校として、地域に根ざし愛される活力のある学校
--------	--

重点目標	1 学習力の向上を図り、生徒が自ら進路を切り拓き社会的に自立する力を育成する。 2 きめ細かい計画的な進路指導のもと、生徒一人ひとりの進路実現を図る。 3 部活動や行事を通して、生徒の成長を図り、体力と心豊かな人間性を培う。 4 国際理解教育の推進とともに、開かれた学校づくりを一層実践する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
						次年度への課題と改善策	
1	○生徒は授業を始め学習活動に真面目に取り組んでいる。昨年度は1年生全員が英検準2級を受し33%が一次合格する等着実に学力は向上している。 しかし厳しい大学入試を勝ち抜くためにはより一層生徒が高い志を持ち、主体的に学ばせる必要がある。そのために、教員が授業改善を進め、生徒の授業以外での学習への意欲を高めさせることが必要である。	○毎日の学習習慣を確立させ、学力を向上させる。  ○教員が意識的に授業改善を図っていく。	①入学直後に学習オリエンテーションを行い高校での学習を意識させる。 ②授業以外の学習時間を増加させるために、週末課題等を課していく。  ①授業力向上研修、授業相互見学、公開授業等を推進して、指導方法の研究・改善に取り組む。 ②授業アンケートを実施し、授業改善を行う。	①オリエンテーションを実施した結果として学習意欲が向上したか。 ②学習状況アンケートを実施し、家庭学習時間の前年度比1.2倍以上の増加が図れたか。  ①授業相互見学実施における見学のべ回数の増加及び協調学習等アクティブラーニングの授業研修会が実施できたか。 ②授業アンケートの結果をフィードバックして活用できたか。	概ね毎日の学習習慣を確立させ、学力の向上をさせることができた。 ①入学直後のオリエンテーションを実施するようになって3年目となるが、国語・数学・英語の学び方や勉強方法などを生徒に周知できた。 ②各教科で学習課題を課した結果、学習時間はやや上昇した。  意識的な授業改善はほぼ達成できた。 ①計画的に公開授業を実施できた結果、学校評価アンケートで生徒は55%、保護者60%が授業がわかりやすいという回答であった。 ②授業評価アンケートを1月に実施して、集計結果を職員会議で報告した。	B  A	【課題】 自宅学習習慣の定着していない生徒への学習習慣を確立させることが課題である。 【改善策】 スタディサポートの結果等のデータを利用して生徒との面談を行う。また校内に「自習室」を設置し学習環境を整える。  【課題】 教授法を研究し授業改善を図る。 【改善策】 教科で模試の結果を分析し、生徒一人一人の苦手を反映した授業内容に改善していく。
2	○約8割の生徒が大学進学を希望しており年々増加している。また、高い志を持って日々努力をした結果、中堅私大合格者の大幅増、一般受験も過半数と伸びている。 生徒の第一志望合格実現に向けて、将来になりたい自分を思い描き、キャリア教育を充実させ、一般入試対策に取り組む、また、各種検定に挑戦させるなど、高校生活を通して自分を高め続ける進路指導を行う。	○進路指導計画の充実、資格取得の向上を通して実績を向上させる。	①ガイダンスの充実、オープンキャンパスへの参加や卒業生の体験に基づき、進路意識啓発に取り組む。 ②全国模擬試験結果を活用して、受験校検討会を実施する。 ③授業補習・進学補習を実施し、進路実現のためのペースを掴ませて学力を向上させる。 ④衛星補習システムを活用し、学校でも家庭でも連続的に学ぶことのできる環境を整備する。また、映像を補習に活用する等積極的に活用する。 ⑤小テスト等実施、英検I B Aの活用等により英検、漢検の全員受験、合格を目指す。	①企画の実現と参加人数、進路アンケートによる効果の検証を行う。 ②模擬試験の結果を指導に生かすことで、一般受験・中堅・難関大学等への進路実績数を伸ばすことができたか。 ③補習への参加数が増加したか。 ④衛星補習システムの利用者数の増加、C B Tの活用により学力が向上できたか。また、補習等に活用できたか。 ⑤資格試験最終合格者数が増加したか。	実績の向上はほぼ達成できた。 ①「夢ナビライブ」への1年生全員参加や進路適性検査を新たに企画し導入した。 ②模擬試験を年3回実施した。昨年に比べ2年生は若干低下したが、1,3年生では成績が上昇した。センター試験の得点率7割の生徒が昨年に比べ2倍上昇した。 ③補習は全学年で実施し、小論文指導も含め全教員が関わった。保護者の約80%が補習に十分に取り組んでいると回答した。 ④衛星補習システム導入により自宅でも視聴可能な新システムになり学習意欲の向上に繋がった。全校生徒の11%が視聴し延べ480時間視聴した。 ⑤英語検定準2級1次試験に103名が合格し事前に18名が準2級に合格した。	A	【課題】 ・センター試験受験者の得点率のアップが課題である。 ・衛星補習システムの視聴の増加させることが課題である。 【改善策】 ・1年生から一般受験を意識した学習指導と進路指導を行う。 ・衛星補習システムの「使い方説明会」の開催や講座の取り方のモデルプランを提示し生徒が試したくなる指導を確立させる。
3	○部活動加入生徒9割以上、県大会以上出場部活動が増加するなど文武両立の活躍がめざましいものがあり、また、生徒会が中心となり体育祭・文化祭等の行事も盛んである。学校行事からリーダーシップと課題解決能力を学ばせる。 「時を守り、場を清め、礼を正す」ことを徹底し自律心を涵養する。また、命を大切に教育特に交通安全意識を向上させる。	○生徒の体力向上と豊かな心の育成を部活動や学校行事を通して行う。	①県大会以上の出場を目指した部活動を行いながらも、文武両立を図るために部活動単位で生徒に学習を呼びかける。 ②学校行事において企画段階から生徒が主体的に活動する。 ③講演会やスタート・ストリート法による安全教育、校外巡回指導等を通して交通安全意識を向上させる。 ④校内外の美化意識を高めて、きれいな環境を維持する。	①部活動参加人数及び県大会出場部活動数が増加したか。 ②学校行事において生徒が積極的に参加したか。 ③交通事故防止の具体的な取り組みをするともに事故件数が減少したか。 ④美化委員会の清掃点検の実施によって校内美化が進んだか。	生徒の体力向上と豊かな心の育成を、部活動や学校行事を通して達成できた。 ①運動部620名、文化部401名、88.3%の生徒が部活動に加入し年度当初より活動を継続し、多くの部活動で県大会以上の実績を上げた。 ②学校行事では自主的な活動が見られ、生徒・保護者ともに90%が学校行事が活発だと回答した。 ③登下校時のヘルメット着用を推奨するなどの取組を行い、事故件数は減少した。 ④美化委員会による美化点検を月1回行った結果、80%の生徒が美化が行き届いていると回答した。	A	【課題】 ・部活動のより一層の活性化が課題である。 ・事故ゼロへの取り組みをさせることが課題である。 【改善策】 ・部活動の効率的な指導を目指し文武両立の理念の基、顧問の共通理解を図る。 ・ヘルメット着用の呼びかけを継続し、風紀委員会のポスター等、生徒への交通安全意識の醸成を図る。
4	○獨協大学留学生や海外修学旅行による現地高校生との交流等、国内外での異文化交流が定着してきており、留学者が増加したりと国際理解教育が着実に進んでいる。JICA講演会・外国修学旅行の交流会等、国際理解教育推進委員会を中心として組織的に取り組み、生徒の国際感覚をより一層高めていく必要がある。 また、地域に開かれた学校づくり推進のため、広報活動を工夫し実施する。	○国際理解教育の推進をする。  ○開かれた学校づくりの推進をする。	①さまざまな講演会の実施や地域の留学生等他国の同世代との交流を通じて異文化理解に努める。 ②ロータリークラブ等の海外留学や海外研修の情報を積極的に提供し支援する。  ①ホームページの内容を適宜更新して広報内容を充実させる。 ②地域の小学校・中学校・高校・大学、社会福祉施設と連携協力し、生徒による学習サポート活動や地域貢献等を推進する。	①国際理解を深める教育実践が昨年度より多く実施できたか。 ②生徒の国際理解教育に対する意識が高まったか。  ①ホームページへのアクセス数の増加とともに時機に合った更新ができたか。 ②昨年度を上回る地域貢献活動が実施できたか。	国際理解教育の推進をほぼ達成できた。 ①5月に台湾弘文高級中学校との交流を実施し昨年度よりも回数を増加させられた。また、獨協大学生との交流でも1年生全員が異文化体験を行った。 ②2年生で「台湾修学旅行」を実施し事前指導で、クラスごとに壁新聞を作成・掲示し、訪問地への知識・理解を進化させた。  概ね開かれた学校づくりの推進ができた。 ①ホームページの運営は図書情報部が中心となり見直しに取り組んだ。また、初任者研修として学校の様子で月3回程度更新した。 ②書道の教員による書き初め指導や生徒による小学生の夏休みの学習サポートの講師派遣を行った。	A  B	【課題】 委員会を中心とした「国際理解教育」の組織的に運営することが課題である。 【改善策】 委員会の構成員を見直しし、また、年間計画の作成や総合学習の時間の調整を計画的に行う。  【課題】 ホームページの記事の精選とホームページ構造を改善することが課題である。 【改善策】 視聴者にとってわかりやすく、興味を持ってもらえるホームページを構築する。

実施日	平成30年2月20日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校と生徒が丸となり、学習力の向上に取り組んでいると言える。また、授業を参観する中で上級学年になるにつれて、生徒一人一人が自分の在り方について考えているように見受けられた。</li> <li>大変落ち着いた雰囲気の中で授業が行われている点が評価できる。「学校評価アンケート」の中の「わかりやすく丁寧な授業」の項目について6割が肯定的に答えているが、この値をどう考えるかは難しいと思う。できる限り過去のデータを取り、経年変化を明確化してほしい。</li> <li>考査と授業の連関性について各教員が情報共有を十分に行い、授業内や採点時の差異がないように授業を行ってほしい。教員個々の授業改善を行うだけでなく、教科間の研修を進めてほしい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で進路指導について大変努力していて、力強くバックアップしていると感じる。また、生徒たちもそれに応えるように更に上へ向かった努力を重ねていると感じている。</li> <li>「進路指導部便り」を見て、生徒のことを考えた懇切丁寧な指導をしていると感じた。</li> <li>高校としては生徒の当面の目標としての大学進学指導が進路指導の中心となるのだろうが、AIが今ある職業の半分を人間から取って代わると言われる未来を力強く切り拓く資質・能力をどのように身に付けさせるかという視点を持ってほしい。</li> <li>英語の外部試験の利用について研究する余地があり、高大の連携が必要である。</li> <li>生徒がとても元気で礼儀正しく校内に入るととても爽やかで良い気持ちになる。こうした資質は社会人に必要なこの校風を生かしてほしい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活や部活動から生徒たちは礼儀や適切なコミュニケーション能力を学んでおり、高校生としてきちんとしている。</li> <li>学校行事や部活動に肯定的な回答が多いのは、生徒の成長に多く寄与していただいていると感じる。</li> <li>学校生活全般において、保護者からの評価が高いことは草加高校にとっての評価である。</li> <li>草加市のリーディング高校として、地域に向けて活動を発信する機会を増加してほしい。スポーツや音楽、芸術など部活動を生かして、市民祭りや文化イベント、市民スポーツ大会など積極的に参加してほしい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>例年行われている「獨協大学留学生との交流会」や今年度行われた「台湾修学旅行生との交流会」など、異文化交流が活発に行われていると感じる。また、体育祭や草高祭などで地域の方々为学校に訪れているのを見ると、地域にも開かれた学校であると思う。</li> <li>台湾の生徒との交流会や英語検定の1年生全員受験など、ぜひ来年度も継続してほしい。さらに生徒が英語を使う実践的な場を、意図的に増やして異文化体験をさせてあげてほしい。</li> <li>文化祭の日程に関して、草加市の土曜授業と同日になってしまったのは残念だった。</li> <li>平成29年度の学校としての活動について、もう少しホームページでの広報があると学校の動向がわかってよいと感じている。</li> </ul>	